

(報道資料)

## 海洋における空間情報の計測体制を強化 ～ 3次元海底地形計測で港湾DXと洋上風力発電の調査・計画を支援 ～

株式会社パスコ（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：島村秀樹、以下：パスコ）は、航空レーザーやドローン搭載型グリーンレーザースキャナ、船舶を利用した音響測深機を用いて、地上から水底に至るシームレスな3次元地形データを取得し分析・解析する技術によって、河川や湖、港湾など水域における調査・計画・維持管理を支援しています。

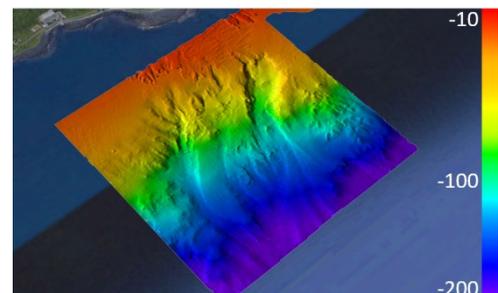
近年、再生可能エネルギーとして注目される洋上風力発電や河川・ダム湖・港湾などの維持管理など、水域における計測ニーズは年々増加しています。

パスコは増加するニーズに応えるため、海洋における計測体制の強化を目的として、今まで以上に高精度で詳細な3次元海底地形が取得可能な最新のマルチビーム測深機<sup>(※)</sup>を追加導入し、12月より運用を開始いたしました。

本機器の導入により、水域におけるパスコの計測体制は、航空レーザー測深機1台、ドローン搭載型グリーンレーザー2台、音響測深機11台となりました。

パスコは、再生可能エネルギーとして注目されている洋上風力発電の調査・計画、施工に必要な3次元海底地形計測や港湾DXなど、水域計測の対応を強化してまいります。

※ マルチビーム測深機は、船舶から扇状に複数の音波（音響ビーム）を放射し、海底からの反射を捉えて海底を面的に計測する計測機です



3次元海底地形

### ■海洋における空間情報について

四方を海に囲まれた日本では洋上風力発電のポテンシャルが高く、港湾法の改正や再エネ海域利用法（海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律）の制定など、洋上風力発電に関する法整備が進められてきました。洋上風力発電の設置方法には大きく分けて海底に基礎を設置する着床式と洋上に浮かべる浮体式の2つの設置方法があります。着床式では設計・施工のために、浮体式では係留アンカーの設置場所の傾斜を把握するために海底地形の把握が必要となるため、洋上風力発電の事業性の検討において、3次元海底地形データが必要となります。こうしたことから、国や地方自治体、発電事業者による3次元海底地形計測のニーズが増加しています。

また、国土交通省では、建設現場における生産性を向上させ、魅力ある建設現場を実現するi-Constructionを推進しており、港湾分野においてもICT施工実施要領の策定を進めています。さらに、非接触・リモート型の働き方への転換と生産性や安全性の向上を図るため、インフラ分野のDXを推進しています。3次元海底地形データは、こうした港湾分野の調査・計画、設計・施工、維持管理などの効率化・高度化に向けた港湾DXに利用可能な基礎データとなります。

## ■新規導入機器について

新たに導入したマルチビーム測深機「SeaBat T50-P」は、測深能力と分解能（精密さ）が向上しています。さらに、ノイズ低減機能を搭載しているため、作業の効率化とともに品質の向上が図れます。

パスコ保有機器でのスペック比較

	既存保有機材	新規導入機材	
周波数	200-700 kHz	200-400 kHz	
分解能	12.5 mm	6.0 mm	向上
測深能力	400 m	450 m	向上
ノイズ低減機能	なし	あり	向上

## 【参考】

パスコは、計測を主とした業務のほか、各種の調査・計画策定を行うコンサルティング業務を行っています。環境分野では、再エネ設備導入に向けたゾーニング（適地選定と合意形成）や環境アセスメントを始め、景観、生態系、動植物、藻場・干潟などの各種調査業務、リモートセンシングやGIS、AI技術による解析や情報整理等を組み合わせることで、幅広い分野の環境課題に対応し、企画検討から事後調査まで総合的に業務支援を行っています。

◇再生可能エネルギー事業の開発や導入検討に向けた支援

[https://www.pasco.co.jp/products/saisei\\_ene/](https://www.pasco.co.jp/products/saisei_ene/)

## ■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社パスコ

（報道機関）

（お客様）

広報部

お問い合わせフォーム

<https://www.pasco.co.jp/>

[press@pasco.co.jp](mailto:press@pasco.co.jp)

<https://www.pasco.co.jp/contact/>

プレスリリースの内容は発表時のものです